

パンドゥニア - シンプルな国際語

sal, dunia! - こんにちは世界！

パンドゥニア語について学ぶへようこそ!



パンドゥニアとは?

パンドゥニアは国際補助語です。それは他の共通言語で話せないときに、人々が互いに話すために使う簡単な言語です。多言語の世界で他の言語を補うことを目的としています。

パンドゥニアは人工言語です。英語、フランス語、スペイン語、中国語、ロシア語、アラビア語、ヒンディー語などの自然言語よりも簡単かつパンドゥニアの学習は誰にとっても簡単です。その言葉は世界のすべての大陸とすべての文化の多くの言語から借用されています。



2. つづり

パンドゥニアは、ふたつの意味で表音的です。

1. 単語を見れば、必ず発音がわかる。
2. 発音を聞けば、ほぼ確実に綴りがわかる。(ほぼ、というのは、外来の人名などが存在するためです。)

それぞれの文字に割り当てられた発音といくつかの規則を学習すれば、それだけでパンドゥニアを発音することができます。

基本的なラテン文字

パンドゥニアを書くときには、ラテン文字を使います(英語を書くときに使う文字です)。フランス語などでは字上符(ダイアクリティカルマーク)のため、ほとんどの国と地域では、コンピュータで入力したり、印刷したり、実際に使用してみるにあたって、苦勞する必要がありません。

A B C h D E F G H I J K L M N O P R S Sh T U V X Y Z

音声の表記に関する註釈

このページでは、文字の発音を示すのに、IPA(国際音声記号)を使用します。文字を[角括弧]や/スラッシュ/で囲うことで、発音を表現します。

[角括弧]は、実際の言語音を書き表すときに用います。たとえば、[r]と[ʀ]は二種類のr的な発音を表します(それぞれ、ふるえ音とわたり音)しかし、パンドゥニアでは、[r]と[ʀ]は区別されず、ひとつの音として扱われます。このような言語上の「ひとつの音」(「音素」と呼ばれましたが、パンドゥニアにおいては[r]or[ʀ]のどちらの音が発されていたとしても、/r/というひとつの音素として解釈されるのです。以上のことを記号で表すと、/r/ = [r] ~ [ʀ]のようになります。

発音

パンドゥニアの音声体系は独自のものであり、綴りの体系は概ねヨーロッパやラテンアメリカのものに類似しています。

パンドゥニアの音声と綴り字との対応を、下の表に網羅します。

	唇音	歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
閉鎖音	b p	t d	ch j	kg	
摩擦音	f	s z	sh		h
鼻音	m	n		ng	
接近音		l			
ふるえ音		r			
半母音	v		y		
狭母音	u		i		
中央母音	o	(ʊ)	e		
広母音		a			
	後舌	中舌	前舌		

母音

パンドゥニアには、5種類の母音があります。綴りの上では、それぞれ a, e, i, o and u と表現されます。

下の表は、それぞれの母音について、IPA(国際音声記号)で発音を表記したものです。

- a = [a]
- e = [e]
- i = [i]
- o = [o]
- u = [u]

加えて、「シュワー(あいまい母音)」と呼ばれるものも使用することができます(IPAでは[ʊ]と書く音です)。この母音は、発声するのが実際には、この音は綴りには表れませんし、発音されないことも珍しくありません。

パンドゥニアにこの音が入り入れられたのは、発音の難易度を低めるためです。音の並びが発音しづらく感じられたときには、子音の後にシュワーを入れようとする場所は人によって異なるでしょう(たとえば、英語の話者は/str/という音に馴染みがありますが、日本語の話者にとってシュワーは、子音と子音の間や、語末の子音の後に加えることができます。skolを発音するときには、/skol/と読んでもよいですし、/sʊkol/ (子音連続をシュワーで避けた発音)と読んでもいいですし、/sʊkolʊ/ (子音連続だけでなく、語末の子音にもシュワーを加えた発音)。

いずれにしても、聞くぶんにはほとんど同じような音に聞こえるはずで、というのも、シュワーは必ず短く読まれるし、アクセントを置かれる（どのような位置にシュワーを入れても、単語のアクセントが変わることはありません。）シュワーを入れるのも省くのも各自の自由です。楽

半母音

半母音は、母音と似たような発音ですが、音節境界をつくる時には子音のように振る舞います。パンドゥニアには、2種類の半母音がありますと **v** です。どちらも音節の始めにしか現れず、かならず母音が後に続きます。

- **v** = [w] ~ [Ꞥ] ~ [v]
- **y** = [j]

また、パンドゥニアには、母音に母音が後続する場合（au, eu, ou, ai, ei, oi）があります。二重母音として読んでも構いませんし、単なる母音と

子音

パンドゥニアには 19 種の子音があります。それぞれの音を綴るときには、ラテン文字（またはその組み合わせ）を用います。ほとんど全ての文字は、英語（や、日本語を綴るときのローマ字）と似た音で発音されます。

ひとつの音素に複数個の発音が許容されているときは、チルダ (~) でそれぞれの発音を繋いであります。

- **b** = [b]
- **ch** = [tꞤ]
- **d** = [d]
- **f** = [f]
- **g** = [g]
- **h** = [h] ~ [x]
- **j** = [dꞤ]
- **k** = [kꞤ] ~ [k]
- **l** = [l]
- **m** = [m]
- **n** = [n] ~ [Ꞥ]
- **p** = [pꞤ] ~ [p]
- **r** = [r] ~ [Ꞥ]
- **s** = [s]
- **sh** = [Ꞥ]
- **t** = [tꞤ] ~ [t]
- **z** = [z] ~ [dz]

外来表現の綴りと発音

上で挙げたもの以外にも、外来の表現のためだけに使用できる文字（や、文字の組み合わせ）があります。外来の表現というのは、人名や地名な

- **c** = [ts]
- **kh** = [x]
- **gh** = [Ꞥ]
- **ph** = [Ꞥ]

- **bh** = [β]
- **q** = [q]
- **qh** = [χ]
- **rh** = [ʀ] ~ [ʁ]
- **th** = [θ]
- **dh** = [ð]
- **zh** = [ʒ]
- **w** = [w] ~ [ʋ] ~ [v]

これらの文字は、ローカルに使用されることを想定しています。このような文字を採用するのは、各地域の言語における名前を入力するにあたり、個別の文字の発音がわからなくても大丈夫です。c, q, w はそれぞれ ch, k, and v と読んでも構いませんし、h を含む組み合わせについては、h を無視して発音しても構いません。なので、たとえば、zh を z と読むようなことも、許容されるのです。

実例を挙げてみましょう。ギリシャの首都は現地の言語（ギリシャ語では）“Αθήνα” /aθina/ と呼ばれています。パンドゥニアでは、この名前を“Athina”と綴ります。発音はギリシャ語式に /aθina/ としても構いませんし、単に /atina/ と読んでも構いません。

このほか、以下のような例が考えられるでしょう。 **Khartum** ハルツーム (スーダンの首都)
Rhone ローヌ川 (フランスとスイスを流れる河川)

語の構造

パンドゥニアの構造は比較的単純です。音節の構造は (C)(L)V(S)(N) です。ここにおいて、

- C は子音
- L は流音 (l または r)
- V は母音
- S は半母音 (y または v),
- N は鼻音 (m, n, または ng), 流音 (l or r), 摩擦音 (f, s, sh または h) を表します。
- (括弧)で括られた部分は無くても構いません。

下のテーブルは、いくつかの音節の例（全て実在する単語です）を、軽いものから順に並べたものです。

Syllable	(C)	(L)	V	(S)	(N)	Word meaning
a			a			‘〇〇に、〇〇で’
ai			a	i		‘愛、愛する’
an			a		n	‘反〇〇、逆〇〇’
pa	p		a			‘父’
pai	p		a	i		‘パイ’
pan	p		a		n	‘全て’
plan	p	l	a		n	‘計画’

借用語の語形の調節

一般に、パンドゥニアに新しい語彙が取り込まれる場合には、パンドゥニアの発音に合わせて語形に変更を加えます。固有名詞であっても変更の

一般的な語彙

一般的な語彙とは、たとえば、あるグループの成員を表すものです。「犬」は一般的な語彙ですが、「サム」は違います（固有名詞です）。

一般的な語彙は、ふつうの語彙構造に従わなければならない、通常の発音のみを割り当てられます。（したがって、zh や c などの音を、一般的な語彙に割り当てることは許容されません。）

パンドゥニアの語彙は、たいてい英語における（語源の同じ）単語と比べて、音韻構造が単純です。単語の始め、終わり、その中間のいずれに属していても、したがって、パンドゥニアでは、stadium は **estade** になり、act は **ate** になり、saint は **sante** になります。また、単語の終わりに閉鎖音が立派な **soup** は **supe** になります。

固有名詞

固有名詞と、滅多に使用されない一般的な語彙は、ふつうの語彙よりもやや複雑です。通常はバンドゥニアの語彙に現れないような音素を使用する。たとえば、Smith（「スミス」。人名）を **Smith** と書けば、構造が複雑になるうえに th という外来の音を含むこととなりますが、そのようにする。ただし、他の言語圏に属するひと（今回は日本語話者など）は、この名前を正確に発音できないことが多いことでしょう。したがって、固有名詞についても、バンドゥニアの音声体系にしたがって表現するのがよいでしょう。

大文字と小文字

バンドゥニアには、大文字と小文字の使いわけがあります。

大文字が必須であるのは、国際的に採用された一部の頭字語を書く場合のみです。というのも、この事例に関しては、大文字と小文字を区別しない。たとえば、1 mm (**un milimetre**) means '1ミリメートル (1/1000 メートル)' を表しますが、1 Mm (**un megamitre**) は '100万メートル' を表します。これ以外については、いかなる場所であっても小文字を使って構いません。（たとえば、文の最初であっても大文字に大文字が不要であり、大文字の用途について細かい規則を定める必要がないことには、3つの理由があります。

1. 綴りは発話を表すものであるけれど、音声での会話には「大文字」は存在しない。そうした「問題点」があるにもかかわらず、口頭での発話では大文字を使わない。
2. 世界中の文字を見ても、ほとんどは「大文字/小文字」といった区別をしていない。
3. 小文字だけを使うほうが単純である。大文字を使うときのための規則をわざわざ設けなくてもよい。

固有名詞

書き手の好みによっては、固有名詞を大文字で始めてもよいです。家族名（姓）を書く場合には、語頭から語末までの全てを大文字で書いてもよい。姓についてこのような書きかたをすると何が嬉しいのか、と思うかたもいらっしゃるかもしれません。人名には言語ごとにさまざまなフォーマットがあり、しかしながら、どのような名前も、一貫して小文字で書いても構いません。

人名の書きかた（例）：(1) ludoviko lazaro zamenhof, edgar de val, mizuta sentaro（小文字のみ）(2) Ludoviko Lazaro Zamenhof, Edgar de Val, Mizuta Sentaro（大文字で書きはじめる）(3) Ludoviko Lazaro ZAMENHOF, Edgar de VAL, MIZUTA Sentaro（大文字で書きはじめ、姓を大文字で統一する）

頭字語

単語の最初の一文字づつを取ってつくられた単語（ASEAN, EU, NAFTA, UN など）を綴るときには、必ず大文字を用います。それ以外のパターンの単語を綴るときには、大文字と小文字の組み合わせを使っても構いません。たとえば、ロシア語の“Glavnoye Upravleniye Lagerey” を縮めて、GULag とすることができます。

大文字は、国際単位系を表す場合にも使用されます。たとえば、10 Mb (des megabite), 100 GB (sento gigabaite), 2 mm (du milimetre), 1 kJ (un kilojul).

音節の区切りを表す文字

単語を音節ごとに区切って表現するときには、「-」を使います。たとえば、bus, ka-fe, hu-mor, pos-te, hi-drar-gen-te のようになります。

約物

«.» どんな文であっても、ピリオドで終えることができます。

«?» 疑問文の文末では、代わりに疑問符を使用することもできます。

«!» 感嘆符は、発言の音の大きさを表したり、強調したりする際に使われます。

«...» 三点リーダーは、文が途中で途切れる場合や、不確かさを表現する場合などに用います。

«:» コロンは、説明や引用や一覧を書き始めるときに用います。

«,» コンマは小休止を表すときや、節または一覧の中の要素を区切る際に使われます。

バンドゥニアでは文頭に大文字を用いないので、文と文とを区切る際に（境目をはっきりさせるために）ふたつ以上のスペースを開けてもよいです。具体的には、(1) 約物の後に2つのスペースを入れるか、(2) 約物の前後にひとつづつのスペースを入れることができます。

(例)

(1) sal! tu gud, he? mi vol go to kafekan. tu van kom kon mi, he?

(2) sal ! tu gud, he ? mi vol go to kafekan . tu van kom kon mi, he ?

フォーマルでない場においては、顔文字や絵文字などを文末に置くこともできます。たとえば、:) (笑顔) や:((悲しい顔) など。

mi vize tu : - 見えてますよ (にここ)

tu no vize mi : (- 見てくれてない (しょんぼり))

3. 品詞

品詞は文法上の性質や振舞いに基づく語の分類です。品詞は大きく分けて内容語と機能語に分類されます。内容語はほとんどの情報と意味を伝わり、機能語は文法に必要なものです。内容語がなければ意味のあることを言えませんが、特に長い文では内容語をまとめるために機能語が必要です。

バンドゥニアの主な内容語は名詞、動詞、修飾詞です。同様に主な機能語は代名詞、限定詞、前置詞、後置詞です。

大半のバンドゥニアの単語の品詞は文脈に依存します。

例えば **love** は動詞または名詞または形容詞になれます。

mi love tu. - 私はあなたに恋しています。(動詞)

tu gamo mi se love. - あなたは私の恋を感じます。(名詞)

mi kitab un love letre. - 私は恋文を書きます。(形容詞)

5. 名詞

活用はありません

名詞はものに名前を付ける品詞です。他の品詞同様に活用はありません。単数/複数、定型/不定型、どのような場合でも同一の単語が使われます。

sek - 石、その石、複数の石、その複数の石

meza - テーブル、そのテーブル、複数のテーブル、その複数のテーブル

kursi - 椅子、その椅子、複数の椅子、その複数の椅子

sui - 水

数量の表し方

数が1つであってもたくさんであっても影響を受けません。必要に応じて数詞で表す事も出来ます。

kursi - 椅子、複数の椅子

un kursi - 1つの椅子

du kursi - 2つの椅子

tri kursi - 3つの椅子

meni kursi - たくさんの椅子

複数あることを表すときには、量語を用いることもできます。つまり、名詞を二回繰り返すことで、複数形になるのです。

kursi kursi - 複数の椅子

buk buk - 複数の本

shan shan - 山々

量語を用いる場合、数量を表す **meni** などの語とは併用しないほうがよいでしょう。というのも、量語によって複数であることが明らかであるか

meni buk buk などと言わなくても、**meni buk** だけで複数あるということが明らかになるのです。

固有名詞

固有名詞は、個人や土地などを表すための名詞です。

人に対して敬意を表すために、**si** という語を名前に前置することができます。si によって、発話を丁寧にすることができます。

フォーマルな場でもそうでない場でも si を使用することができます。年齢や属する集団、性などを問わず、あらゆるひとに対して使用することが

敬意を表すための方法は文化圏ごとに異なります。ある文化圏（たとえば、日本語圏）などに於いては、敬称をつけずに人を呼ぶのは、丁寧さを一貫して使用するのがお勧めです。

si はフルネームの前に置いてもよいですし、姓や名の片方に前置しても構いません。

si Ishikura Icuki - 石倉いつきさん、石倉いつき氏

si Ishikura - 石倉さん、石倉氏

si Icuki - いつきさん、いつき氏

7. 修飾詞

修飾詞は別の単語に品質や説明を追加する品詞の総称です。例えば「良い」、「悪い」、「大きい」、「速い」がそうです。

名詞の修飾

形容詞は名詞を修飾します。通常名詞の前に置かれます。

nove karo – 新しい車

rapid karo – 速い車

dai meza – 大きなテーブル

gau meza – (高さが)高いテーブル

gud kursi – 良い椅子

複数の形容詞で同一の名詞を修飾できます。

let nove karo – 小さい新しい車

動詞の修飾

副詞は動詞または別の修飾詞を修飾する単語です。

副詞は動詞の前に置かれます。

mi **gud** sona. – 私はよく眠る。

tu **gud** bashe pandunia. – あなたは上手にパンドゥニアを話す。

よく修飾機能語の **di** ははめることができます。構文を明るくします。

tu **gud li** bashe pandunia. – あなたは上手にパンドゥニアを話す。

3.3. その他の修飾詞の修飾

修飾詞はその他の修飾詞を修飾することもできます。例えば副詞の **bas** (十分) は動詞や形容詞を修飾します。

mei jen – 美しい人

bas mei jen – 美しさが十分の人

比較

修飾詞を比較できます。

mor (比較 優位) より優れることを表します。

mor... dan hol (比較 最上級) 最も優れていることを表します。

les (比較 劣等) より劣ることを表します。

les... dan hol (比較 最下級) 最も劣っていることを表します。

sim (比較 平等) ほぼ等しいことを表します。

接続語 **dan** は副詞を比較条件に割り当てます。

mi es mor gud **dan** tu. – 私はあなたよりも優れています。

tu sim gud li loga **dan** mi. – あなたの話し方は私と同じくらい良い。

6. 数詞

基数

1桁	10以降	20 以降	30 以降
0 siro	10 (un) ten	20 du ten	30 tri ten
1 un	11 ten un	21 du ten un	31 tri ten un
2 du	12 ten du	22 du ten du	32 tri ten du
3 tri	13 ten tri	23 du ten tri	33 tri ten tri
4 for	14 ten for	24 du ten for	34 tri ten for
5 faif	15 ten faif	25 du ten faif	35 tri ten faif
6 sixe	16 ten sixe	26 du ten sixe	36 tri ten sixe
7 seven	17 ten seven	27 du ten seven	37 tri ten seven

1桁	10以降	20以降	30以降
8 eite	18 ten eite	28 du ten eite	38 tri ten eite
9 nain	19 ten nain	29 du ten nain	39 tri ten nain

1桁	2桁	3桁	4桁
1 un	10 (un) ten	100 un hunde	1000 un tauzen
2 du	20 du ten	200 du hunde	2000 du tauzen
3 tri	30 tri ten	300 tri hunde	3000 tri tauzen
4 for	40 for ten	400 for hunde	4000 for tauzen
5 faif	50 faif ten	500 faif hunde	5000 faif tauzen
6 sixe	60 sixe ten	600 sixe hunde	6000 sixe tauzen
7 seven	70 seven ten	700 seven hunde	7000 seven tauzen
8 eite	80 eite ten	800 eite hunde	8000 eite tauzen
9 nain	90 nain ten	900 nain hunde	9000 nain tauzen

これ以降の数も同様の方法でつくられます。

10'000 un ten tauzen
 100'000 un hunde tauzen
 1'000'000 un milion
 10'000'000 un ten milion
 100'000'000 un hunde milion
 1'000'000'000 un tauzen milion

100以降の数字はSI単位系（国際単位系）をもとにした語形になっています。この単位系は、世界中のさまざまな言語で、科学用語として取り入

接頭辞	略記	指数表記	十進表記
deka	da	10^1	10
heto	h	10^2	100
kilo	k	10^3	1'000
mega	M	10^6	1'000'000
giga	G	10^9	1'000'000'000
tera	T	10^{12}	1'000'000'000'000
peta	P	10^{15}	1'000'000'000'000'000
exa	E	10^{18}	1'000'000'000'000'000'000
zeta	Z	10^{21}	1'000'000'000'000'000'000'000
yota	Y	10^{24}	1'000'000'000'000'000'000'000'000

（名詞に係る）基数詞

数値は数字や他の数詞で表せます。それらは修飾する単語または句の前に置かれます。

un sing – 1つの星
du sing – 2つの星
tri sing – 3つの星
kam sing – 少しの星
meni sing – たくさんの星

un dai kursi – 1つの大きな椅子
du dai kursi – 2つの大きな椅子
tri gud kursi – 3つの良い椅子

4. 代名詞

人称代名詞

代名詞は名詞や名詞句の代わりとして使うことができるものです。

Singular	Plural
mi 私	vi 私たち
tu あなた	yu あなたたち
da 彼、彼女、それ、その人	di 彼らは、彼女らは、それらは、あの人たちは

どの名詞にも性の区別はありません。パンドゥニアでは、どのような性の生物（や非生物）であっても、同じ代名詞で指し示すことができます。が使われます。パンドゥニアは、全ての者たちを平等に扱うのです。

パンドゥニアには、「私たち」にあたる表現がありません。**yumi**は包摂的な（＝聞き手を含む）代名詞で、「私、あなた、そして他のひと」と**dimi**は非包摂的な（＝聞き手を含まない）代名詞で、「私と他のひと（ただしあなたは含まない）」と言い換えることができます。そして、**vi**は包摂性を問わずに使える代名詞です。

所有代名詞（「私の」「あなたの」など）をつくる際には、代名詞の次に **su** という単語を置きます。

Singular	Plural
mi se わたしの	vi se わたしたちの
tu se あなたの	yu se あなたたちの
da se かれの	di se かれらの

再帰代名詞

文の目的語が主語と同じ場合に使われます。日本語の「自身」という言葉と同じように、一人称（私自身）、二人称（あなた自身）、三人称（かれ自身）**se** を使って表現します。

sef - 自身、自分

mi vize sef. - I see myself.

da vize sef. - 彼女/彼/その人は自身を見ます。

vi vize sef. - 私達は自身を見た。

let mau ya lingue sef. - 小さな猫は自身(の体)を舐めた。

「お互い」にあたる表現は **unotre** を使ってつくります。

unotre - お互い

mi e tu vize unotre. - 私とあなたはお互いを見る。

vi vize unotre. - 私たちは互いを見つめあう。

指示代名詞

指示代名詞は対象を特定する際に使われます。パンドゥニアでは、指し示す対象と話し手との距離に応じて、以下のような指示代名詞を使い分け

da hir - この (近距離)

da der - その、あの (遠距離)

da - 前述の (既知)

近くにあるものを指し示すには **da hir** を使います。遠くにあるものを指し示すには **da der** を使います。

mi van da der mau. - 私はあの猫が欲しいです。

mi van da hir buk. - 私はこの本が欲しいです。

は、名詞に係って「この、あの、その」にあたる表現をつくるだけでなく、単独で「これ、あれ、それ」にあたる表現をつくる場合もあります。

da hir es gud. - これは良い。

da der es bad. - あれは悪い。

tu van da hir, he? - あなたはこれが欲しいの？

no, mi van da der. - いや、私はあれが欲しい。

指示代名詞の後に動詞が続く場合は、動詞の前に **ya** (否定文の場合には **no**) を置く必要があります。

da hir ye gani e da der no gani. - こいつは歌うけど、あいつは歌わない。

(**da hir** は「これ」と「この〇〇」を兼ねるので、**ye** を使わないと文の解釈が難しくなります。たとえば、上の例で **ye** を使わなかった場合、**ye gani** 「この歌」と紛らわしいです)

上に挙げたふたつの代名詞 (**da hir, da der**) は、まだ話題に上っていないものを取り上げるときに使われます。それに対して、**da** は既に会話中で言及されたものや、聞き手が既に知っているものを指すときなどに使われます。

mi have un mau e un vaf. da vaf es dai. - 私は猫一匹と犬一匹を飼っています。その犬は大きいです。

指示代名詞の抽象的用法

指示代名詞は人や物だけでなく文などを指すこともできます。**da** は既に言われてしまったことを指し、**da hir** は今まさに言っている途中のこと、**da der** はこれから言おうとしていることを指します。

da hir jumla es korte. - この文は短い。 **mi seme da der: mi love tu.** - 私が言いたいのはこういうことです：私はあなたを愛していると。(=**mi love tu. mi seme da.** - 私はあなたを愛しています。それが私の言いたいことです。

上の例では **da der** は自身の直後にある文 (**mi love tu**) の内容を指し、**da** は自身の直前にある文 (**mi love tu**) の内容を指しています。

疑問代名詞

kua は汎用の疑問代名詞です。それは「誰」と「何」を意味します。

kua? - 「誰?」または「何?」

副詞の疑問代名詞も **kua li** です。「どのように」、「どのくらい」を意味します。

kua li nove? - どれくらい新しい?

kua li koste? - どれくらい(費用が)かかる?

kua li meni? - いくつ、いくら(どれくらい多い)?

kua li dai? - どのくらい大きい?

kua li let? - どのくらい小さい?

tu have kua li dai mau? - あなたはどのくらいの大きさの猫を飼っていますか?

8. 動詞

動詞は行動や発生を表します。例) 見る、食べる、話す、考える。

動詞は時制や相や敬語や極性などによって変化することがありません。

mi yam aple. - 私はリンゴを食べる。

mi yam aple a preden. - 昨日私はリンゴを食べた。

mi bi yam aple.** - 昨日私はまだリンゴを食べている。

guru yam da aple.** - 先生はリンゴを食べます。

mi no yam da aple.** - 私はリンゴを食べない**。

普通、機能語は主語と目的語を別れます。主語も目的語も内容単語の時に有用です。

uma ye yam da aple. - 馬はリンゴを食べる。

9. 文章

名詞または代名詞の主語

通常、文は主語と述語で構成されます。最も単純な文では主語は名詞または代名詞であり、述語は形容詞または名詞です。

mi gud. - 私は元気です。

da nove. - それは新しい/新品です。

da Sara. - 彼女はサラです。

Verbal predicative clause

主語は名詞だったら、繋辞の動詞の **es** は必要です。

Sara es gud. - サラは元気です。

seku es dai. - この石は大きい。

meza es nove. - このテーブルは新しい/新品です。

Negating the complement

no が追加されると否定文になります。

mi **no** gud. ~ mi no es gud. - 私は気分が優れません。(訳注:「元気がない」では不自然)

da **no** nove. ~ da no es nove. - それは新しくない/新品ではない。

da **no** Sara. ~ da no es Sara. - 彼女はサラ(人の名前)ではありません。

形容詞と主語

同じ事が2つの形容詞または動詞にも言えます。

yun - mei. ~ yun es mei. - 若いことは美しい。

nove no sen. ~ nove no es sen. - 新しいもの/新品は古くありません。

gani - gud. ~ gani es gud. - 歌うことは良いです。

動文

述語は動詞を使えます。それから目的語もあることはできます。

次の文はSVO順です。

mi yam som aple. - 私はリンゴを食べます。

mi vize tu. - 私はあなたを見ます。

語順が変わるために受動的な機能語を使うことはできます。

tu be vize mi. - あなたは私に見られます。

ban be bake. - パンが焼かれます。

行動を起こす側は前置詞 **of** の有無に関わらず動詞の後に言及できます。(訳注:まだ前置詞の解説はしていないので、この部分は飛ばして後で戻)

依存文

基本的な依存文(SVOVO)

依存文の語順は次の通りです:

S(主語)-V1(動詞)-O1(目的語)-V2(動詞)-O2(目的語)

O1には2つの役割があります。V1の対象であり、V2のS(主語)でもあります。

mi van tu yam vege. - 私はあなたが野菜を食べることを望みます/要求します。

上の例では **mi van** の目的語は **tu** です。同時に **tu** は次の述語 **yam vege** の主語として機能しています。つまり **tu** は文全体の**依存語**となります。#### 代名詞の省略

特定の文では簡潔にするために代名詞は省略されます。これは特に命令文と要求文で行われます。

mi sual tu basha pandunia. - パンドゥニアを話せますか。

sual tu bashe pandunia? - パンドゥニアを話せますか。

mi plis tu kom haus. - 帰ってきてくれませんか。

plis kom haus! - 帰ってきてください!

連続動詞

次の文には動詞が複数使われているものがありますが、それらは全て同じ主題を対象としています。

1. mi go to haus. - 私は家に帰ります。

2. mi kan go to haus. - 私は家に帰ることができます。

3. mi van kan go to haus. - 私は家に帰ることができることを望みます。(=私は家に帰りたいです)

観察

観察は最も単純な文構成です。聞き手が注目する1つの単語のみで構成されていることがあります。

mau! – 猫だ!

barsha! – 雨が降っている!

11. 単語の構築

パンドゥニアは単語の派生が行えるため、新しい単語を作ることができます。使用される接尾辞のほとんどは、すでに国際的に使用されています。語源の多くは古代ギリシャ語、ラテン語、アラビア語、ペルシャ語、中国語から来ています。2つ以上の単語を組み合わせると**複合語**を作れます。最後の単語は複合語で最も意味のある単語であり、その前に来る単語は最後の単語を修飾するだけです。

例1) yen sui(涙)

yen	(□)
+ sui	(□)

= yen sui (□□→□)

例2) termometer (温度計)

terme	(□□)
+ (o)metre	(□□)
+ -er	(□□)

= termometer (□□□)

Prefixes

de-

動詞の意味を逆にする動詞を作ります。否定を意味する単語を作るためのものではありません。

node ~を結ぶ → **denode** ~をほどく

detapa 差し込む → **detapa** 抜く

Suffixes

-bil

可能性を表します。動詞の語尾に連結します。

vizebil 表示可能な

-ter ~ -er

行動を起こす側の名詞を作ります。行動を実行する人、または道具を表します。

loga 話す → **logater** 話す人

lide 導く → **lider** リーダー、先導者

filsofe 思慮する → **filsofer** 哲学者

sapate 靴 → **sapater** 靴職人

muskete マスケット銃 → **musketer** 銃士

kase 箱、レジ → **kaser** レジ係

-ta ~ -ita

抽象的な名詞の多くは **-(i)ta** で終わります。

dai 大きい → **daita** 大きさ

nove 新しい → **novita** 新しさ、新規性

hure 解放された、自由な → **hurita** 自由

-isme

特定の方法で行動または思考する傾向があるか、特定の政治・社会思想、もしくは宗教に従う傾向がある人を表します。

alkol アルコール → **alkollisme** アルコール依存症

dee 神 → **deisme** 有神論(1つまたは複数の神の存在を信じる考え)

-iste

dee 神 → **deiste** 有神論者(1つまたは複数の神の存在を信じる者)

-kan

作業場所

sapatekan 靴屋

verkekan 工場

kitabekan 図書館